

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2121	施策名	歴史を守り文化・芸術を育てるまち	主 担 当 課	生涯学習課
大項目	心豊かな人づくり				
基本 方針	市民一人一人が、文化に親しみ、文化を創造し、文化活動に参加できる環境をつくり、文化・芸術の担い手を育成することで、文化・芸術を育てるまちをつくります。 また、歴史上価値ある文化財を保護し、その活用を図ることで、先人から受け継いだ歴史と伝統を守り、後世に伝えるとともに、それを大切に思う風土を育みます。			関 係 課	

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	芸術・文化活動推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
芸術・文化活動をする市民			芸術・文化活動の活性化、知性と文化意識の高揚			各事業を通して芸術・文化活動への表現者としての参加を働きかけるとともに、優れた芸術・文化活動の鑑賞機会を市民に提供します。						
取組 内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	・笠岡市さつき・新緑展 ・名月観賞の夕べ ・笠岡市文化祭 ・笠岡市芸能祭 ・笠岡市菊花展 ・笠岡市児童・生徒美術展 ・笠岡市写真展			⇒ ・岡山県美術展覧会笠岡会場 (隔年開催)来場者数:1,533人 ※指標実績集計外			⇒			⇒ ・岡山県美術展覧会笠岡会場 (隔年開催)来場者数:1,216人 ※指標実績集計外		
直接 事業費	決算額	1,120	千円	決算額	1,332	千円	決算額	1,120	千円	決算額	1,350	千円
	うち 一般財源	1,120	千円	うち 一般財源	1,332	千円	うち 一般財源	1,120	千円	うち 一般財源	1,350	千円

2	笠岡市木山捷平文学選奨事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
文芸創作活動をする市民			文芸創作活動の活発化と文芸創作活動をする市民を増やします。			短編小説、随筆、詩、短歌、俳句、川柳の各部門で作品を募集します(短編小説は全国公募)。優れた作品を表彰するとともに、入賞作品集を作成して取り組みをPRします。木山捷平文学選奨短編小説賞を通して、笠岡市を全国発信します。						
取組 内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	・短編小説賞の全国公募 (応募者数:288人) ・随筆・詩・短歌・俳句・川柳の市内公募(応募者数:2,157人) ・入賞作品の選考、表彰式、作品集発刊			⇒ ・全国公募(応募者数:288人) ・市内公募(応募者数:2,494人)			⇒ ・全国公募(応募者数:252人) ・市内公募(応募者数:2,404人)			⇒ ・全国公募(応募者数:237人) ・市内公募(応募者数:2,474人)		
直接 事業費	決算額	3,760	千円	決算額	3,226	千円	決算額	1,900	千円	決算額	1,900	千円
	うち 一般財源	3,760	千円	うち 一般財源	3,226	千円	うち 一般財源	1,900	千円	うち 一般財源	1,900	千円

3	文化財の保護・活用事業																				
事務事業の目的					事務事業の内容																
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																			
全市民、場合によっては全県民・全国民		貴重な文化財を後世に伝え、その重要性を啓発することによって、保護活動を促進します。また、文化財の公開活用をすすめることで市民文化を向上させます。			文化財を調査・指定し、保護、顕彰、記録を行います。 指定文化財や埋蔵文化財に係る開発行為については、法令に基づき、協議、調査など所定の手続きをとります。 笠岡の歴史を後世に伝えるために、歴史資料の収集・整理を行います。 市有の文化財や文化財関連施設などの不動産、収集した歴史資料などの動産の管理と公開活用を行います。その拠点のひとつとして、郷土館の整備・活用を行います。																
平成23年度													平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	●文化財保護事業・文化財活用事業を継続 ・原貝塚発掘調査 ・郷土館企画展「関梟翁展」				⇒ ・文化財保存事業補助金3件 ・原貝塚発掘調査 ・冊子「大飛島の遺跡と砂洲」再刊行				⇒ ・冊子「神島のホフマン窯」印刷 ・津雲貝塚範囲確認発掘調査 ・笠岡市井笠鉄道記念館の整備				⇒ ・津雲貝塚調査事業 ・原貝塚復顔模型作成事業 ・文化財保存事業補助金1件 ・おしぐらんご船修繕								
直接事業費	決算額	11,968		千円	決算額	14,330		千円	決算額	10,764		千円	決算額	11,181		千円					
	うち一般財源	11,968		千円	うち一般財源	13,410		千円	うち一般財源	10,334		千円	うち一般財源	7,606		千円					

4		竹喬美術館管理運営事業										
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
入館者(利用者)		入館者を増やします。 収蔵竹喬作品の充実を図ります。 美術創作体験の機会を増やします。 美術に対する関心の喚起を図ります。 美術館情報の周知を行います。				魅力的な展覧会を開催します。 作品の購入、寄贈、寄託の促進を行います。 気楽なワークショップを開催します。 魅了的な講座、講演会、ギャラリートークを開催します。 電子媒体の活用を推進します。						
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度				
取組内容		竹喬美術館展覧会の実施		⇒		⇒		⇒ ・特別展3回、特別陳列4回の開催 耐震診断を実施				
直接事業費	決算額	48,382	千円	決算額	33,054	千円	決算額	34,762	千円	決算額	37,353	千円
	うち一般財源	20,349	千円	うち一般財源	16,669	千円	うち一般財源	21,329	千円	うち一般財源	25,317	千円

<3.施策の直接事業費(2の合計)>

平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
直接事業費	65,230	千円	51,942	千円	48,546	千円	51,784	千円			
うち一般財源	37,197	千円	34,637	千円	34,683	千円	36,173	千円			

<4.指標>

指 標 名				目標・実績の推移					
				H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1	文化祭などの参加者数	単位	目標				9,700	9,800	11,000
		人	実績	8,140	9,679	9,558	9,111	8,740	
			達成率				93.9%	89.2%	
2	市内団体文化振興事業後援数	単位	目標				55	60	60
		団体	実績	42	41	54	59	62	
			達成率				107.3%	103.3%	
3	笠岡市木山捷平文学選奨への応募者数	単位	目標				2,656	2,800	3,000
		人	実績	2,107	2,445	2,782	2,656	2,711	
			達成率				100.0%	96.8%	
4	文化財新規・継続保護件数	単位	目標				40	50	50
		件	実績	40	47	40	35	33	
			達成率				87.5%	66.0%	
5	文化財活用講座・事業件数	単位	目標				30	30	30
		件	実績	33	37	42	35	37	
			達成率				116.7%	123.3%	
6	竹喬美術館入館者数	単位	目標				17,850	18,000	19,500
		人	実績	12,559	15,979	16,742	11,775	12,400	
			達成率				66.0%	68.9%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・文化財については、教育活動に積極的に活用することにより、維持、発展できるものと考えられます。	→ 子どもたちを対象とした笠岡の文化財に関する資料の作成及び普及事業を実施します。
・美術館の財源が非常に少ないという理由で、学芸員が2人、収蔵庫も一杯で市民からの寄託ができないなど解決すべき問題が多い。予算がない場合でも、ボランティア募集、人が集まりやすい美術展の開催等を検討していただきたい。	→ 市民からの寄託については、現在借用しているトランクルームを館蔵品用として活用して、展示に有効な作品は受け入れることとしました。虚心思、竹喬祭の開催など諸行事の実施に友の会の積極的な協力を得ました。美人画など市民の要望の多い企画展を実施しました。
・竹喬美術館の収蔵庫が一杯と聞いている。今後、寄贈が増えてくると思われるので検討されたい。	→ 市内外から竹喬作品の寄贈申出が続いているので、収蔵庫建設を具体的に検討しています。
・地域の歴史を市民に伝えるためのイベントが不足していると思います。また、市内在住の現役芸術家に対する理解やサポートも不十分だと思います。ぜひ「育てる」という言葉を実践していただきたいと思います。	→ 文化財の保護と活用の両立を目指しながら、色々な形で歴史情報を提供する事業を計画します。

<6.平成26年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案	【芸術文化活動】行事が他のイベントの開催日と重複し、参加しにくいとの声があったので、可能な限り調整を図ります。【木山捷平文学選奨】短編小説部門は海外(1件)及び43都道府県から応募が得られ、全国に向けた情報発信の成果を感じています。市民対象部門については、一般の部における高校生の応募者を増やすため、高校訪問等による協力依頼を行います。【文化財の保護・活用事業】文化財の活用が注目される一方、その前提となる地道な文化財の保護が充分実施できていないため、文化財保護の意義を訴え、調査と保護に充てる時間を確保します。【竹喬美術館】年間入館者の増減幅を小さくするために、来館を促進する企画展を精査して実施します。中・長期的に増加が続く竹喬作品の寄贈、また当館の展示に供する作品の寄贈に応えられる、収蔵庫の拡充に取り組みたいと考えます。
--------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント	・ICTを活用した市民による文化財の閲覧が可能になれば、市の歴史、文化に触れる機会が多くなると考えられます。 ・木山捷平文学選奨への応募で、子ども達は詩作・作文に努力していると聞く。良いことなので、ずっと継続していただきたい。 ・市民が市内の芸術への認知度が低いように思います。市民に知っていただくための工夫をしていただきたいです。			